

統一健康に関する考察

天一国時代の新しい健康の理解

清心神学大学院大学, キムジンチュン. 2006.11

はじめに

人は誰も健康を望む。何故ならば健康は生存と幸せの基礎になって、健康であればこそ、生に対する意欲と価値追求及び価値実現の生を通じて人生の目的を実現することができる。したがって幸せと直結されている健康概念は生のすべての領域で規定されて論議されなければならない。すなわち健康は心と身、個人と家庭と社会と国家と世界、地上世界と霊界、そして地上人と霊人に至るまで生のすべての領域にかけている包括的概念である。

WHO 憲章を見れば第 2 項に「人種、宗教、政治的信念、経済的あるいは社会的条件による差別なしに最上の健康水準を維持するのが人間が享受しなければならない基本権の一つ」であり、第 3 項に「人類の健康は平和と安全を保障するための基本前提」と規定している。

ところで WHO 憲章の第 1 項「健康はただ疾病にかからないとか虚弱ではない状態だけではなく、肉体的、精神的、社会的に完全に幸せな状態を言う」(Health is a complete state of physical, mental, and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.)と規定された健康概念は、このような包括的意味の健康を説明するには充分でない点がある。

また WHO は健康概念を精神的、社会的側面まで拡大したし、1999 年には「霊的健康 (spiritual well-being)」を含むことを決めるのに大きな貢献をしたが、理想的で非現実的なものであり、人間が追求し、志向しなければならない健康目標であって、実現可能性は稀薄だという批判もあげられている。またこの健康概念は「安寧状態(well-being)」の概念が静的で主観的なので客観的な測定に困るという指摘もある。1) 健康は相互補完的で非常に躍動的なので、幸せで満足な生のためには健康の多面的特性を考慮しなければならない。

最近になって全世界的に全人健康(holistic health)と安寧(well-being)が話題になり、健康に対する関心がさらに高まっており、同時に神様の摂理は後天開關時代を迎えて、神様の国すなわち天一国が実体的に地上と霊界に安着されてきている。したがって全世界的関心度と摂理的観点から見る時、健康に対するより根本的次元の理解が必要であると提起されている。

本研究ではより本質的な観点から「統一健康(unification health)」の概念を新しく定義して体系化することにより、この健康概念が真の愛の平和理想世界王国を実現するのに寄与し、同時に統一医学(unification medical science)を定立するのに役立つように願う。

1. 統一健康の背景

1) 伝統的健康概念

健康に対する概念は生物学的健康すなわち身体的健康から始まる。この健康概念は WHO によって身体的(physical)、精神的(mental)、社会的(social)、霊的(spiritual)に拡がったし、安寧の完全な状態(a complete state of well-being)に表現された。一部学者たちはこのような概念に加えて生態学的(ecological) 健康と生活手段的(occupational) 健康も考えるようになった。

「精神的安寧状態(mental well-being)」は精神的ストレスやノイローゼ、焦燥、不安、憂鬱のような単純な精神的障害がない状態だけを意味しないで、ストレスに対する適応力や問題解決のための精神力、健全な価値観と人生観を含む概念として理解することができる：(i) 精神障害がない状態（精神医学の関心対象）(ii) 精神的安寧状態（心理学の関心対象）(iii) 肯定的な人生哲学（宗教/哲学の関心対象）。2)

「精神的安寧状態」は知的、情緒的、霊的状态に細分され、したがって健康は身体的、情緒的、知的、霊的、社会的安寧状態を包括する概念に拡がる。3) ここで知的健康と情緒的健康を合わせて「心理的健康」(psychological health)とも呼び、思考・情緒・感情の健康を言うが、Menninger の心理的健康 6 段階、あるいは Maslow の欲求 5 段階のように段階的分類で現わすことができる。4)

ところで健康のこのような概念は互いに重複されて相互に影響を及ぼしているのであるが、健康の多次元で均衡状態に到達した人々を「全一的な健康状態」あるいは「最高の健康状態(high level wellness)」にあると言う。5) 結局健康と言うのは、解剖構造と生理機能が正常でありながら、情緒的、知的、霊的、社会的に、環境に対して適応がよいだけでなく、自ら自分を管理して最上の安寧状態を維持することだと言える。6)

(1) 身体的健康 (physical well-being)

「身体的健康」は人間の解剖構造と生理機能が正常範囲にある状態として、疾病感受性、体重、視力、力、均衡感覚、スタミナ、回復力などの生理的構造的要素に対する健康だ。すなわち身体的健康は身体の各器官が機能的に作動して疾病や障害がなく、身体が濫用(薬物、ストレス、環境的危険要素など)に最小限にさらされている状態を言う。7)

(2) 知的健康 (intellectual well-being)

「知的健康」は感情と異なり思考または認知分野での安寧状態を言う。この分野の健康は情報を受け入れて、理解・分析・評価・判断して、話したり、書いたりして、価値観と信念を定立する能力などに関するものである。すなわち学習能力と知的な挑戦に成功的に対応する能力を言う。8)

(3) 情緒的健康 (emotional well-being)

「情緒的健康」は思考と異なり、感情あるいは感じに関する安寧状態を言う。自負心、愛、感情移入など人生の多くの側面が含まれる。すなわち情緒的健康は家族と友達、人生の目標と熱望に対して感じる事など、日常生活の中で感じるすべてのことに関わる健康であ

る。私たちの感情を認識し、統制し、適切に表現して、ストレスに対処、葛藤の解消、柔軟な生活姿勢の維持などに関する能力を意味する。9)

(4) 霊的健康 (spiritual well-being)

WHO は 1999 年に既存の健康概念に「霊的健康」を含むことに決めた。「霊的健康」の概念には宗教生活を通じる魂の安息と代替医学やグッコリ、気功法など民間療法まで含まれる。10) すなわち霊的健康は生の霊的志向、神の存在を説明する教理、絶対者の存在、宗教的意識、本然的な人間行動、他人のために奉事する意志などに対する健康である。ある者は霊的健康が「真正な健康」の核心だと主張している。11)

R. Eberst 教授は、霊的健康には「信頼、誠実さ、原則と倫理、生の目的または推力、基本的な生存本能と利己心のない感情が含まれる」と主張する。また彼は「より高い摂理や存在に対する認定や、通常的な説明ではなされない、ある概念に対する信仰も含まれている」と言う。12)

(5) 社会的健康 (social well-being)

「社会的健康」とは、多様な社会の中での適応能力や他人との対人関係能力のような社会構成員として社会的役目を遂行することができる能力だと見られる。13) すなわち他人との相互作用における安寧状態と関連がある。他人といる時、楽さを感じる程度、社交術、他人に対する関心、差位を受け入れる能力が含まれる。社会的健康には家族、地域社会、世界に意味ある寄与をすることも含まれる。14)

多様に変化する現代社会では、個人の社会生活関係が非常に重要なので、社会的健康は健康の範疇に含ませなければならない。15) また疾病を予防して健康を増進させるのに、個人の次元を越して社会と国家の役目が必要である。特に健康に及ぼす環境的要因が徐々に重視される状況では、個人的次元の健康管理には限界があるしかない。

(6) 生態学的健康 (ecological well-being)

人間が最上の安寧状態を維持しようとするれば、環境との絶え間ない相互作用が成り立たなければならない。「生態学的健康」概念において、健康を環境との適応という観点から理解する。すなわち健康を「身体的、精神的、社会的に環境に適応して最適の楽さを維持する状態」と定義する。この概念は人間を動的に環境と無限に相互作用をする存在として理解し、したがって健康を環境によく適応する状態という観点から説明する。16) Bernard は健康を「外部環境の変化に対する内部環境の恒常性維持」と言った。

(7) 職業上の健康 (occupational well-being)

「職業上の健康」は自分の職業に対する満足度に係わる健康である。職業満足度は職業上の健康に直接的な影響を及ぼす。人は外的補償(賃金、インセンティブなど)と内的補償(創造性発揮機会、発展的ヒューマンリレーションなど)によって、職業に対する満足感を感じる。したがって健康とは肉体的、情緒的、知識的、霊的、社会的、職業的要素を日常生活に活用して、個人の成長と啓発を成して幸せな生を営むようにする能力と言える。17)

(8) 東洋の健康概念

健康の「健」は屈強だという意味であり、身体が元気であることを意味し、「康」は楽な康、楽しい康、和する康であって、気楽なことを意味する。したがって健康は身体と心が共に元気ではなければならないという意味がある。身体と心の元気な人は全身の機能が均衡を成しているし、循環が円滑に成り立って、精神的に安定して、外貌や威風が堂々で穏やかで君子のような人である。18)

東洋の健康概念では気概念が重要だが、「気」とは生命の呼吸または宇宙を生動させるエネルギーを意味して、たえず循環する流れの源泉になる。「気」の流れが生命を維持すると考え、一定の「気」の通路を硬脈と言う。「気」がなだらかによく通じることを健康と言う。東洋的健康は天地人合一思想を根幹にして人間と自然が一つになる均衡状態であり、陰陽が調和を成して宇宙を生動させる気の流れがいつもよく循環する状態である。19)

2) 安寧と全人健康の到来とその限界

(1) 安寧(well-being)と全人健康(holistic health)

WHO 憲章には健康を「安寧の完全な状態」(a complete state of well-being)と定義している。前で見たとおりのように健康は生のすべての領域に係わるので身体的、精神的(知的、情緒的)、靈的(価値的)、社会的、生態的、職業的安寧(well-being)を考えることができる。

「全人健康」はこのようなすべての領域の安寧をともに備えている健康と言えり。すなわち全一性(holism)は相互作用する全体、すなわち分離した部分と言うよりは完全なシステムに関わることを言うからである。

(2) 安寧と全人健康の限界

このような安寧概念と全人健康は健康に対する包括的側面を提示しているが、創造本然的で創造理想的な観点から見れば、まだ不十分である。すなわち、すべての人間の本質的で究極的な真の愛理想世界、すなわち真の自由・平和・統一・幸福の真善美の平和理想世界を目標にしていない。またこれらは人間の墮落性と墮落世界の実相を復帰しなければならない事実も見逃している。

それだけでなく、これら概念には霊人体と霊人たちと霊界に対する要素が欠けている。すなわち疾病の靈的要因に対する治癒方案がないし、健康の永遠性に対する人間欲求を充足できない。霊界を準備する生としての地上生活、内なる人(霊人体)と外なる人(肉身)の真の関係、内的栄養素である生素と生靈要素及び生力要素などが言及されていない。

より根本的には、創造本然の生は第一、第二、第三祝福にかなった生であり、健康はこのような三大祝福と分離することができない要素なので、これらの概念は三大祝福的段階と調和と統一性が不十分である。

3) 統一健康時代の到来

既存の伝統的健康概念と安寧及び全人健康が持っている限界は新しい摂理時代を迎えて、修正補完されなければならない。人類は後天開闢時代を迎えて、対立と葛藤に代わって共

存と調和を、闘いと不幸に代わって平和と幸せを謳歌している。このような新しい時代は根源的、本質的概念の新しい健康を必要としている。

この時代は「統一原理(あるいは、成約のみ言)」という名前で、世の中に広く知られた神様の完成級真理のみ言が具体的に成り立つ時である。統一原理によって個人と家庭と社会と自然と一緒に成す創造本然の世界は、統一原理に土台にした健康が具現された世界であるという。本研究ではこのような健康を「統一健康」と呼ぶ。

2. 統一健康の概要

1) 統一健康の意味と特徴

統一健康は統一原理に即した健康である。したがって統一健康は創造本然の状態であり、創造本然の生自体で、創造本然の存在の姿だと言える。このような統一健康の特徴は次のように説明されることできる。

第一に、統一健康は創造本然的健康すなわち天一国の健康あるいは「天一国健康」ということできる。創造本然の世界は神様の性稟と主権と意味がすべての存在にあまねく込められている世界である。その世界は真の愛と真理のみ言の世界なので統一健康はすなわち「真の愛健康」であり、「み言の健康」ということできる。

第二に、天一国民は統一健康で暮すようになっていて、天一国生活はすなわち統一健康の生活である。したがって天一国は統一健康を通じて安着されると言える。

第三に、統一健康は創造目的すなわち三大祝福を土台にした健康なので「三大祝福健康」ということできる。第一祝福的健康は理想個人の健康であり、第二祝福的健康は家庭的健康である。そして第三祝福的健康は万物主管的健康と言える。三大祝福どおりに暮せば個人と家庭と社会と世界と自然環境が、真の自由・平和・統一・幸せ・喜びを享受するようになるのであり、統一健康はそのような生を形成する健康である。

第四に、統一健康は創造法則に土台を置いた健康である。すなわち統一健康は二性性相的健康であり、授受作用的健康であり、正分合作用的健康で、四位基台的健康である。言い換えれば統一健康は二性性相、授受作用、正分合作用、四位基台の基礎の上で構築された健康だと言える。

五番目に、統一健康は人生の三段階の生である母胎生活と地上生活と若者生活を含む健康である。人間は誰でも三段階の生涯を暮すようになっているが、母胎生活は地上生活のための準備であり、地上生活は永遠な故郷である霊界生活のために準備する生活である。統一健康はこのような三段階の生を通典的に包括する健康である。

六番目に、統一健康は「統一医学」²⁰⁾によって管理される健康である。統一医学は統一原理に即した医学として創造理想と墮落と復帰の観点から健康状態を診断し、治療しながら予防する。また統一医学は霊性と西洋と漢方の調和の中で診断と治療と予防を行う。統一健康はこのような統一科学によって健康を管理する。

七番目に、統一健康は「統一的(通典的)」健康である。したがって統一健康は神様と人間と万物、創造目的と創造法則、三段階的生、三大祝福、地上と霊界などが統一と調和を成している健康である。

2) 統一健康の作用原理

統一健康は統一原理に基礎を置いた健康概念であり、統一原理は創造法則と創造目的を中心にした創造理想に対する真理のみ言である。統一健康の作用原理が創造法則的側面なら、統一健康の内容体系は創造目的すなわち三大祝福的側面と言える。創造目的は創造法則の上で具現されるので統一健康の作用原理は統一健康の内容体系を構成する基盤と言える。創造法則は大きく二性相の法則、授受作用の法則、正分合作用の法則、四位基台の法則を考えることができる。二性相は相対的で相補的な関係性(双双関係)を含む。したがって統一健康は内性と外形、陽性と陰性、主体と対象という相対的で相補的な関係を存在自体はもちろん他の存在との関係において維持している健康である。また統一健康は個性真理体ながら同時に二重目的(個体目的、全体目的)を持った連体としての相対的で相補的な関係を持っている健康である。

授受作用の法則は二つの存在が共通の求心点を中心して、二性相的な相対基準を造成して、愛と美をお互いによく取り交わすことで、生存・作用・繁殖のための力を発生させる法則である。統一健康は円和的で中和的で躍動的で円滑な授受作用に即して新陳代謝を維持する健康である。

正分合作用は神様の性品と創造目的と意味が実体として分立展開されて、二性相的な関係を結んでいる二つの存在が、授受作用をすることで合性体すなわち新しい実体を作る作用である。統一健康はこの作用によって人間が自分の同一性を持つ中和体で維持するとか、あるいは創造と発展を意味する新生体を形成する。

四位基台は神様を含めて正分合作用の四つの存在がそれぞれ三対象目的を完成することで十二対象を完成した状態である。四位基台の土台の上にある統一健康は、この基台が含む統一・対称・調和・均衡・球形と立体性・関係性・躍動性を持つようになる。

3) 統一健康の内容体系

統一健康の内容体系が創造目的すなわち三大祝福的側面ならば、統一健康はすなわち三大祝福的健康になる。したがって三大祝福的状态あるいは三大祝福的生自体がすなわち統一健康である。要するに統一健康とは、神様を中心した創造本然の生に対する健康的用語であると言えるのであり、これを数式で表現すれば、「統一健康 = 第一祝福的健康 + 第二祝福的健康 + 第三祝福的健康」ということができる。

(1) 第一祝福的健康：個人的健康

第一祝福的健康は完成個人が持つ健康状態だ。すなわち神様を中心して心と身体あるいは霊人体と肉身が二性相の関係を結びながら授受作用をして合性体(中和体)を成す。言い換

えれば正→分→合過程によって神様・心/身(あるいは、霊人体/肉身)-個体が 12 対象目的を完成した状態が第一祝福的健康だ。

このように第一祝福的健康状態を成した人は神の性稟に似ていて、神の真の愛とみ言の実体対象になって、神の子になり、神様の身体・聖典・形象になり、第二の神になる。第一祝福的健康を成した人の生心は神から生素をよく受ける。それで神の心情と情知意と一体になって、神の創造目的と創造法則、そして創造理想と摂理とみ旨をよく分かるようになる。

そのような人は心情(特に子女の心情)がよく成長し、情(情感性)・知(知能)・意(意欲、意志)も均衡的成長をするようになる。そして生心に充満した生素は生霊要素(生霊要素)として肉心に伝達される。そして生素で満ちた生心が肉心の主体的立場に立って、中心軸(求心点)の役目をするようになる。

生素が中心になった肉心は肉体と二性性相関係と授受作用及び正分合作用を通じて肉身を形成する。そして合性体である肉身は理想的姿と状態と機能を維持する。この時、肉体のすべての細胞と組織と器官及び器官関係は生素を中心して存在・作用・繁殖をなして神を中心に動じ静する有機体としての健康状態を維持する。

このような肉身は生素を中心として生活して、生素を中心した生力要素を生成することにより、霊人体は成長するようになる。すなわち霊人体は神様からの「生素」(実体化されない生素)と肉身からの「実体化された生素」(生・生活・体験の中に溶解された生素)を受け取ることでよって成長するようになる。こういうわけで情知意も均衡的に啓発される(EQ、IQ、WQの増進)。

このように第一祝福的健康を成した人は、心の健康、身体の健康、心身統一体の健康を成すようになって、同時に霊人体の健康、肉身の健康、霊肉統一体の健康を成すようになる。また生心健康、肉心健康、生心・肉心統一体の健康を成すようになる。

(2) 第二祝福的健康：家庭的健康

第一祝福的健康を成した人は神と心情一体を成して子女の心情が成長し、情知意も各々発達することにより神の創造目的と創造法則及びみ旨と摂理をよく感じ、理解して、実践意欲も旺盛になる。このような段階に到達した男と女が祝福結婚をして自同的四位基台を成すと理想的な真実の夫婦になる。

このような夫と妻はそれぞれ子女の心情と兄弟の心情と夫婦の心情を体恤するようになる。そして夫婦の情知意もさらに成長するようになり、それぞれの生心はいつそう成熟するようになる。したがってこのような夫婦は持続的な授受作用を通じて、生存・作用・繁殖の力をさらに発生させるから、個人よりもっと元気になる。すなわち真の夫婦の健康は個人的健康よりもっと強くなる。もしこのような夫婦が子女を持つようになれば夫婦は父母の心情も成長させて行く。夫婦はそのように四大愛を実践して四大心情を成長させることで彼らの健康はもっと増進される。

一歩進んで真の父母として真の家庭を成している人が隣人と氏族と社会と国家と世界と霊

界の人と四大心情圏を成せばその人の健康はもっと良くなるでしょう。すなわち天宙大家族の家族になって共生共栄共義の社会の生を暮す人は天宙的健康を成すようになる。

(3) 第三祝福的健康：万物主管的健康

第一祝福的健康と第二祝福的健康を成している人は、自然環境すなわち万物を第二の自我に立てて、真の愛で主管することで共鳴関係を結ぶようになる。真の愛で主管するという事は、万物を保護し、管理して彼らの存在価値を具現させるのだ。ここで万物とは無生物、植物、動物、宇宙はもちろん日常的なことや業務、そして時間、空間、政治経済、社会、文化、科学、技術、芸術、スポーツなど、人間以外のすべてのものを含む。

そのようにして万物が存在目的を成し、便利で豊かで安楽で美しい天国環境を成すようになって、そのような人間は価値追求欲と価値実現欲を成して喜びと幸せを楽しむようになる。

第三祝福において、人間の対象は宇宙、無生物、植物、動物などは勿論、時間、空間、業務、科学、技術、産業、文学、芸術、体育、趣味、言論など数えきれないほど多い。したがって第三祝福を完成して第三祝福的健康を持って暮す人は、そのように多様な存在を真の愛で主管することで健康の質をもっと増大させることができる。

4) 統一健康の判断要素及び既存の健康概念との比較

統一健康は神様を中心した創造本然の生に対する健康である。したがって 三大祝福的状态あるいは 三大祝福的生自体がすなわち統一健康である。

三大祝福の各健康に対して健康の程度あるいは健康状態を判断する尺度(判断要素)を決めることができる。この判断要素を通じて統一健康の具体的な適用が可能だろう。もしこの判断要素に対する計量化が確立されたならば、創造本然の基準(三大祝福的基準)によって、より体系的で通典的な診断と治療と予防が可能だろう。

既存の健康概念は前述のように、七個に要約した：①身体的健康、②知的健康、③情緒的健康、④霊的健康、⑤社会的健康、⑥生態的健康、⑦職業上の健康。これらは統一健康に対応させて見ることができる。統一健康の分野と判断要素の観点から見る時、既存の健康概念は統一健康の一部に相当し、理論的根拠と体系性も不十分である。また通典的観点においても完全性が欠けると言える。

統一健康の分野 健康状態の判断要素

I. 肉体健康 (肉体の健康)

- ・細胞/組織/器官/器官系の機能と代謝①
- ・運動/活動性、自然栄養素摂取
- ・生力要素の生成 (三大祝福的生活)

II. 肉心健康 (肉身の健康)

- ・生霊要素に対する対象 (生心と一体性)
- ・肉体に対する主管性 (節制生活)

III. 生心健康 (生心の健康)

- ・創造本性の発達 (心情/真の愛、情的③ / 知的② / 意的 発達)
- ・生霊要素の分泌 (肉身に動機賦与。肉身の求心点)
- ・生力要素の摂取 (実体化された生素、肉身生活の記録)

IV. 絶対価値的健康 (絶対価値による健康)

- ・生素の摂取 (神性、創造理想/目的/法則、み旨、摂理)④
- ・生素中心した生心/肉心/肉体/生活の整列
- ・生霊要素/生力要素の生素涵養

V. 霊人的健康 (悪霊分立/解怨/祝福による健康)

- ・悪霊/善霊の影響 (心・身全分野に影響程度)
- ・悪霊人の分立/絶対善霊化 (解怨→祝福→再臨協助)

VI. 家庭的健康 (第二祝福的健康)

- ・真の夫婦/真の家庭/宇宙大家族の生活⑤
- ・四大心情/四大愛/三大主体の発達

VII. 万物主観的健康 (第三祝福的健康)

- ・神・人間・自然の調和 (天地人健康)
- ・価値追求欲/価値実現欲 (真の愛による万物主管)⑦
- ・自然愛/保護、自然と共鳴 (天国環境)⑥

3. 統一健康の生活

1) 統一健康の段階 (I) : 肉体健康

(1) 肉身健康と肉体健康

統一健康の第一段階は肉体に対する健康である。肉身が元気になるためには身体の部分である肉体と心の部分である肉心が共に元気でなければならない。特に肉体健康は肉身健康の土台になるので肉体健康は極めて重要で第一次的な健康と言える。

肉身健康の目的は霊人体健康のためである。肉身は霊人体を作って成長させる身体なので、肉身を美しく、元気に、管理がよくできなければならない。また霊人体は肉身を土台にして育つから肉身が喜び、元気になるように、肉身をよく保護しなければならない。霊人体が完全に美しく成長するまで肉身は喜び、元気で育ちながら霊人体を保護しなければならない義務がある。肉身は霊人体をよく作らなければならないのに、霊人体が成長することができなかったまま霊界へ行ったならば、肉身は責任を全くできなかったのである。

このような観点から見る時、肉体健康は統一健康の基礎になり、統一健康の重要な土台になる。

(2) 肉体健康 (I) : 医学的健康

肉体健康のためには医学的管理が必要である。肉体各器官の恒常性と均衡と生命性がよく維持されているか周期的に管理されなければならない。すなわち、各器官の運動、反応、

消化、代謝、排泄、生殖、成長などが正常なのか点検しなければならない。西洋医学と漢方医学そして代替医学の観点から存在法則である二性性相、授受作用、正分合作用、四位基台がよく遂行されていなければならない。

(3) 肉体健康 (II)：運動/活動

運動は、感謝する心と喜ばしい心ですが、適当な時間と適当な程度を守らなければならないし、度外れた運動は止めなければならない。運動を通じて、肉体の各器官と部分が恒常性と均衡と生命性を維持するようにしなければならない。(21)

(4) 肉体健康 (III)：自然栄養素摂取

肉体健康のためには自然栄養素をよく取らなければならない。自然栄養素は食べ物が代表的であるが、空気、水、自然の景観、自然の香り、自然の音、気、日光も肉体健康のために取らなければならない栄養素である。特に肉体健康のためには食生活を改善しなければならない。感謝の心と嬉しい心で食事をするが、適当な量を定期的に食事して、食べ過ぎ・偏食を止めなければならない。

2) 統一健康の段階 (II)：肉心の健康

肉心は生心の対象の立場で生霊要素を取ることで、生心を中心した肉体の生理的機能を維持するようになる。衣・食・住・性に対する欲望や、眠り・眠さ・疲れ・暑さ・寒さなどに対する欲望、あるいは物質的な生活を追及することは、肉心と関わっている。(22)

生心が主体で肉心が対象であり、生心と肉心が合性一体化したものが人間の心であるが、生心が主体、肉心が対象の位置にある時、本心になる。そして肉心が生心に従うということは、価値(真善美)を追求し実現する生活を第一次的にして、物質を追求する生活を第二次的にするという意味である。肉心が生心に従って生心が本来の機能がよくできれば、霊人体と肉身は互いに共鳴する。(23)

20世紀に入り、心身相関医学(psychosomatic medicine)や心身医学(mind body medicine)などが本格的に登場している。心と身体を一つの観点から把握する全一的思考が力を得ている。精神は身体に影響を与え、身体も精神に絶え間なく影響を与える。個人の心構えと精神姿勢が身体的疾病と密接な関係があるという事実を立証する多くの証拠がある。

心と身体は相互に影響を与え合う、密接な関係にある心身統一体(psychosomatic unity)である。その中で、身体の変化が心に及ぼす影響も多いが、それより心が身体に及ぼす影響がもっと大きくて、その程度が深刻であると知られている。精神的障害は生活習慣に大きい変化を持って来て疾病を誘発させたり、悪化させる。

3) 統一健康の段階 (III)：生心の健康

より内的な健康は心の部分、特に心の中心である生心にある。生心は真善美と愛の生活すなわち価値生活を追求する。(24) 生心が元気になるためには、神から生素を受けなければならない。もし生心が生素の代わりに世俗的価値や墮落性でいっぱいになれば、元気では

なくなる。

生心が元気になるためには、一方では生素をよく取らなければならないし、他方では肉身の生活を通じて作られた「実体化された生素」をよく取らなければならない。そのためには、生素に満ちた生霊要素を肉身に供給しなければならない。すなわち生素を肉身の生活の中で中心に立て、その生素を中心として肉身の活動が成り立たなければならない。このような過程は、霊人体の生心に、肉身の真の愛の生を記録して貯蓄することである。

「地上界に住むうちに皆さんの一挙手一投足は、このような天の公法を基準にして、一つも漏れ無く皆さんの霊人体に記録されるのです。したがって霊界に入る皆さんは肉界での生を 100% 収録した霊人体の姿です。… 霊人体自体が真の愛の生を主導し、実践することができるのではないです。皆さんの霊人体は、必ず身体と心の円滑な授受作用によって展開される肉身の生を土台にした真の愛の生を通じてこそ成長し、完熟し、完成されるのです」25)

多くの疾病の場合、生心に問題があるのであるが、生心に刻まれた内容が何かによって疾病と健康が決まる。生心には、心情を中心にして情・知・意と観念・概念・法則・数理性がある。26) したがって、どんな内容が心情、情・知・意、観念・概念・法則・数理性に刻まれているかによって生心の姿が決まる。生素を中心とした心情、情・知・意、観念・概念・法則・数理性になれば、生心も生素を中心に整列されるであろう。

Menninger の心理的健康六段階と Maslow の欲求五段階 27) は生心と関わる段階だと考える。

黄帝内経で説明する漢方医学の精神健康法を考察して見れば、精神的面において言を少なくし、度を外した欲心と高望みを捨てて、常に貞潔さと心の平定を持たなければならない。それでこそ五臓の活動が柔軟で楽であり、心が崩れないで1ヶ所に集まり、あらゆる疾病を避けることができる。自分の立場に合う生活に満足して、人を嫉むとか食欲をしないで、自ら満足しながら素朴に暮さなければならない。喜怒哀楽に心をあまり執着せず、淡泊な楽しさに満足して、何事にも無理をしてはいけない。28)

4) 統一健康の段階 (IV)：生素的な健康

健康を身体的、知的、情緒的、霊的、社会的、生態的安寧状態から表現する時、「霊的 (spiritual)」の意味は霊界 (spirit world、死後の世界) あるいは霊人 (霊人、spirit、死亡人) と関わっているのではない。

既存の「霊的健康」は前述したように、生での霊的志向、神の存在に対する教理、絶対者の存在、宗教的意識、本然的な人間行動、他人のための奉仕などに対することである。Eberst も霊的健康を信頼、誠実さ、原則と倫理、生の目的または推進力、基本的な生存本能、摂理や存在に対する認定、などで説明している。

このような「霊的健康」の概念を統一原理的観点から見れば、生素 (life element) と関わる健康であると言える。生素の中には神様の心情と真の愛、そして神様の情知意と真善美が

こめられている。また生素には神様の創造法則と創造目的及び創造理想が込められているし、神のみ旨と摂理が内包されている。したがって生素の中には人間の創造本然的価値と品格そして存在目的と存在法度が含まれている。

したがって、このような生素は人間に必要な必須の栄養素であり、統一健康の核心であり、中心である。したがって統一健康において生素的健康は本質であると同時に目標になる。

5) 統一健康の段階 (V)：霊人的 健康

(1) 霊界と地上世界、霊人体と肉身

創造本然の世界は霊界と地上世界が和合統一を成した宇宙であり、地上人たちと霊人たちも真の愛を中心して、神の子女の立場で宇宙大家族を成して暮すであろう。愛と善良さと感謝の心と慈しみの心を持っている時、霊人体は元気に美しく成長する。

喜びと幸せで生活すれば、霊人体も元気で、善良で、美しく育つ。サタンと関係しないで創造原理どおり暮せば、霊的に元気になり、肉的にも元気になって、ただ神様の愛だけ受けることができるようになる。

「皆さんの生は、霊的な基準と肉的な基準をよく調和させて、霊肉を合わせた完成実体を成して住んで行って行かなければならないのです。現象世界であり、有限世界である地上界の生において、肉身を土台にして霊人体を完成させなければならない責任があるということです。ところで霊人体の完成は自動的にできるのではないのです。必ず真の愛の実践を通じて、身体と心が完全一体になった生の土台の上でこそ、完熟した霊人体が結実されるのです」29)

しかし人間は墮落によって、地上人たちはもちろん世を去った霊人たちも墮落性によって汚染されている。いろいろの墮落性を持ったまま霊界に行った霊人たちは様々な方法で地上人たちに悪い影響を及ぼしている。

(2) 悪霊の役事

統一原理は、サタンと墮落性を中心として一つになった霊的存在を悪神といい、神を中心として一つになった霊的存在を善神という。善神は神、聖人、善霊人、善天使を称し、悪神はサタン、悪霊人、悪天使を称する。善神たちが行う役事は、地上人たちが生素を取るように、創造本性を涵養するように、また墮落性を清算して復活するように協助する。だから善神の役事は自由、平和、統一、幸せ、喜び、感謝を増進させる。一方、悪神たちの役事はいろいろの墮落性すなわち猜忌、妬み、欲心、驕慢、血気、闘いをけしかける。30) サタンは「肉身」の罪悪性を利用し、人々の肉身に悪い影響力を及ぼし、彼らの心を足場にして、神に反逆し、破壊的な目標を成就しようと陰謀と戦略を企てている。サタンをはじめとした悪霊たちの存在は体系的で組織的でよく訓練された存在として、サタンの主管と陣頭指揮を受けている。サタンは悪霊たちの総司令官である。サタンの下には政治、経済、教育、芸術など、人間の生の多くの面でサタンの計画を遂行する悪の勢力がある。いわゆる「黒暗の権力者」は「悪霊」と呼ばれる存在として実在的行動隊員たちであり、キ

リストの地上使役の中でよく言及された。31)

(3) 悪霊による肉身の疾病

人間先祖の墮落により、さまざまな疾病が肉身を侵犯するようになった。肉体の疾病の中で70-80%は霊的要因によって生じている。現代医学が治療することができない病気にかかって苦しんでいる人々が多いが、ある疾病が医学的に問題ないとすれば、それは確かに霊的な疾病である。この疾病はルーシエルや彼の指示を受けた悪霊たちが苦しめる病気であって、薬を服用するか病院で治療をしてもよくなる。ルーシエルは肉体の疾病だけではなく、精神的な疾病も与える。ルーシエルは人体構造の機能を邪魔して人間の肉体を破壊する。肉体がルーシエルとその一派たちにたえず侵犯を受ければ、彼らの要素が肉体のある部分に密着されて、その部分の機能がまひして肉体が壊れる。32)

疾病と苦痛を与えるために身体中に悪霊たちが入って来ている。彼らはいろいろの役事を通じて疾病と苦痛を与える。このような悪霊たちを整理しなくては、心が善に帰ることができないし、身体も元気な身に戻ることができない。

肉体的疾病より霊的の疾病がさらに深刻であり、悪霊たちは肉体の細胞と組織と器官の機能を制限したり、麻痺させて発達障害を起こし、時には癌細胞を生成したりする。悪霊は神経系、循環系、骨格系、筋肉系、感覚系、呼吸系、消化系、内分泌系、泌尿系、生殖系など身体のすべての分野に悪影響を及ぼす。

相談においても、このような悪霊役事が問題視になっている。ユファジャは医学的ないかなる明らかな理由がなく、また精神疾患的ではないという確かな診断が出れば、霊的問題性を意識して霊的に接近しなければならないと強調する。33)

(4) 悪霊の分立と復帰 34)

健康を維持しようとするれば、悪神たちの影響を次第に減らして根絶させなければならないし、善神たちの協力はもっと強くしなければならない。悪霊たちの悪い影響を分立して、究極的には彼らを神の真の愛とみ言で変換させる過程が清平役事を通じる霊分立と先祖解怨及び先祖祝福である。

霊を分立することで疾病と苦痛から脱することができるし、霊分立役事はすべての疾病と苦痛をあらかじめ防止する役事である。身体にある悪霊たちを分立することによって肉体的にも霊的にも健康がよくなる。

6) 統一健康の段階 (VI)：家庭的健康 (第二祝福的健康)

人間は誰しも個性完成すなわち第一祝福を完成した基盤の上に第二祝福を完成するようになっている。すなわち第二祝福を通じて人間の心情と愛はさらに広く深くなる。真の父母になって真の家庭を成すことにより、四大愛と四大心情はさらに完熟になる。そして真の家庭の生の中で健康状態は成熟する。

そして社会大家族、国家大家族、世界大家族、天宙大家族の生の中で他人との心情的交流も次第に拡がり、したがって家庭的健康(あるいは、社会的健康)ももっと増進される。

およそ家庭的健康は健康の重要な要素になる。家庭的健康(社会的健康)なくしては個人的健康も保障されにくい。人間は二重目的を持った連体的存在なので、健康も個体目的と全体目的の調和の中で考えなければならない：「全体目的を離れた個体目的はありえず、個体目的を保障しない全体目的もありえない」 35)

7) 統一健康の段階 (VII)：万物主管的健康 (第三祝福的健康)

第一祝福と第二祝福を完成した人間は万物を真の愛で主管することができるようになる。第三祝福を通じて、便利と豊かさで安楽な天国の環境を作るようになることにより、人は自然と深い生態学的共鳴関係を結ぶようになる。また真の愛による万物主管を通じて、万物を第二の自我の立場に立てて、万物の真善美の価値を極大化することで喜びを得るようになる。およそ第三祝福を通じて人間の健康はもっと完全になる。

「神様が創造してくださった宇宙万象、すなわち自然環境も人間の生を豊かにさせることで絶対に必要な条件です。人間と自然は愛の主体と管理の対象として互いに調和の中で共鳴圏を成して暮すようになっています。… 環境を保護し、愛することができる賢い天一国の市民になってください。自然に帰って解放と釈放の生を楽しんでください。自然を愛することはすなわち神様を愛するのです。皆さんの生が自然と共鳴圏を成して暮すようになる時、その中で人格完成の花を咲かせるようになるでしょう。」 36)

漢方医学と東洋哲学は特に人間と自然の関係を通じる健康をよく発達させた。すなわち人間は宇宙原理に当たるように生活し、調和を成しながら暮さなければならないし、生活習慣を自然界の循環によく合わせなければならない。四季による陰陽の変化は、生命の発生・成長・繁殖・老化・消滅の基本であることを悟って自然の理を実践すれば、疾病なしに元気に生きることができる。人体内の陰陽の動きは、自然界の多くの現象と関係が深いので人間は与えられた環境との調和をよくささなければならない。

結論

新時代を迎えて、神と人類と万物が謳歌する本然の理想世界が出帆し、安着してきている。真の愛による真の自由と平和と統一と幸せと喜びのあふれる世界が、真らしくて(真)、善良で(善)、美しい(美)世界である。その世界は平和理想世界王国であり、天一国すなわち神の国である。この世界はすべての人間と万物が神を中心して三大祝福の法度に従って生活しながら生きる世界である。そのような世界で生きる人間の姿がまさに最高の健康状態であり、その健康を統一健康と定義した。

本論文を通じて、統一健康に関して論議したことを要約すれば次のようである。

第一に、統一健康は「創造本然健康」、「創造理想健康」、あるいは「天一国健康」ということができる。そして理想世界は真の愛と真のみ言の世界なので、統一健康は「真の愛の健康」であり、「み言の健康」ということができる。

第二に、統一健康は「統一健康 = 第一祝福的健康+第二祝福的健康+第三祝福的健康」の等

式で記述することができるし、第一、第二、第三祝福的健康はそれぞれ個人的健康、家庭的健康、万物主管的健康と言える。

第三に、統一健康は創造法則に土台をおく健康である。すなわち統一健康は二性性相的健康であり、授受作用的健康であり、正分合作用的健康であり、四位基台的健康である。言い換えれば、統一健康は二性性相、授受作用、正分合作用、四位基台の基礎の上で構築された健康だと言える。

第四に、統一健康は統一原理に土台を置いた医学すなわち「統一医学」によって管理される。また統一医学は「統一的」健康なので、創造目的と創造法則、三段階的生、三大祝福、地上と霊界などが調和を成している健康である。

第五に、既存の健康概念は部分的であり、理論的根拠と体系性が不十分である。また通典的観点でも、完全性が少なく生のすべての領域を包容することができない。一方、三大祝福にもとづいた統一健康は包括性と適合性、論理性と体系性、均衡と調和、多様性と統一性などの観点で優秀性を備えている。

第六に、統一健康は創造本然的観点と復帰的観点で診断と治療と予防をすることにより、根源的で本質的で同時に摂理的ながら究極的な観点で健康を新しく理解することができる。

第七に、一番完全な健康は統一健康の七段階で論議された肉体健康、肉心健康、生心健康、生素的健康、霊人的健康、家庭的健康、万物主管的健康を皆備えた状態だと言える。

第八に、統一健康七段階の「健康状態判断指標」は摂理の進展による心霊と知能の発達により、学問的にも体験的にも客観的で普遍的な事実立証されることができるし、今後のより厳密な過程を通じて、計量化することで、より客観的で普遍的な診断と治療と予防の指針として活用されることができるであろう。

End Note

<題目順番>

1. パンドクジン、現代人の健康管理、(ソウル: 新光出版社、1999)、p.19。
2. Ibid., pp. 82-83.
3. Ibid., pp. 18-20.
4. B. K. Williams, S. K. Knight, *Healthy for Life* (健康科学の理解)、チョンヘギョン編訳、(ソウル: ウリュ文化社、1998)、p. 37。
5. Williams & Knight, *op cit.*, pp. 14-15。
6. Naidoo & Willis は健康を肉体的、精神的、情緒的、社会的、霊的な健康に加えて、性的な健康(性欲の満足な表現を受け入れて果たすことができる能力)を含んでいる。J. Naidoo & J. Willis, *Health Promotion: Foundations for Practice*, 2nd ed、地域保健研究会役、(ソウル: 計測文化史、2001)、pp. 17-19 参照。
7. Williams & Knight, *op. cit.* pp. 14-15.
8. Williams & Knight, *op. cit.* pp. 14-15 ; Hahn & Payne、Ibid., pp. 9-11.
9. Williams & Knight, *op. cit.*, pp. 14-15.
10. パンドクジン、*op. cit.*, p. 20。
11. Hahn & Payne, *op. cit.*, pp. 9-11.
12. Williams & Knight, *op cit.*, pp. 14-15.
13. パンドクジン、*op. cit.*, p. 20。
14. Williams & Knight, *op. cit.*, pp. 14-15.
15. チェチャンホ、健康学概論、(ソウル: 新光出版社、2004)、p. 12。
16. パンドクジン、*op. cit.*, p. 21。
17. D. Hahn & W. Payne、*Focus on Health*, 6ed、ジュワンギ、キムヒョンチュン、ジュジンヒョン訳、(ソウル: ライフサイエンス、2004)、pp. 9-11.
18. パクジェンスック他、生活と健康、2nd ed、(ソウル: 啓明大学出版部、2005)、p. 17.
19. Ibid., p. 17.
20. 統一医学(unification medical science)に対する真実ご両親のみ言を見れば、「肉身の病気だけではなく墮落によってできた病気を治療して東西洋のけんか、宗教けんかなどを止めるようにするため「統一医学」が必要です。東西医学を合わせるとこれからエイズのような難病を直すことができる医学が出るのです。」(97.5.19) 「私が漢方医学と西洋医学を一つ作るために作った「統一医学」というのは保護医学です。病気にかかる前に天敵の基盤を活用して防衛することができる、手術しなくても根源的なすべてのものを解放することができると思うのです。」(03.5.10)。
21. 清平の宇宙清平修練院で実施する讚揚時間は肉体の健康にも大きい効果がある。大きい音で拍手すれば硬直された身解いてくれて緊張解消させて、自信感高めてくれる。手は身の縮小版なので手の平で全身をたたけば生気があふれて元気になって疾病の予防と治療

に効果がある。また拍手は両手運動なのでズァヌェと右の脳が選ぶように発達されて、集中力が嚮上する。

22. 統一思想研究院、統一思想要綱(頭翼思想)、(ソウル: 成和社、1994)、p.233。
23. Ibid.、p.234。
24. 統一思想研究院、op.cit.、p.234。
25. 平和メッセージ、op.cit.、pp.43-44。
26. 統一思想では生心の情・知・意を内的星霜と言って、観念・概念・法則・修理性は内的形象と言う。統一思想研究員、Ibid.、pp.32-36 参照。
27. Menninger の心理的健康 6 段階[対応能力の減少によって仕分け]は深刻な心理的荒廃感(生の意志喪失)→深刻な鬱病と失望(精神病と奇怪な行動)→社会的犯罪(大っぴらな攻撃性暴力行為)→性格場に(恐怖症)→過剰反応(不安、神経質)→正常な対応装置と自我調節。Maslow の欲求 5 段階[人間の欲求充足によって仕分け]は基本欲求(生理的欲求→満足欲求)→心理的欲求(所属感と愛の欲求→尊敬の欲求)→自我実現欲求 (Williams & Knight、op.cit.、pp.38-39; Hahn & Payne、op.cit.、p.27)。
28. マオシンニ、分かりやすい皇帝内経(黄帝内経)、ジェソンマン翻訳、(ソウル: 青紅、2002)。
29. 世界平和統一家庭連合、平和のメッセージ: 神様の理想家庭と平和理想世界王国、(ソウル: 成和社、2006)、p.42。
30. 世界基督教統一神霊協会、原理講論(ソウル: 成和社、1995)、p.97。
31. Buebeck、The Christian Versus Demon Activity The Adversary、(Chicago: Moody Press)、pp.72-74; 油絵者、pp.152-167 で纒人用。
32. 李相軒、霊界の実相と地上生活、(ソウル: 成和出版社、2000)、pp.285-316。
33. ユファジャ、霊的戦争と治癒、(ソウル: キリスト教改革新報社、2005)、p.107。
34. 世界平和統一家庭連合、成約時代の清平歴史と祝福家庭の道、(ソウル: 成和社、2000)、pp.64-73、88-103。
35. 原理講論、op.cit.、p.45。
36. 平和メッセージ、op.cit.、pp.72-73。

参考文献

- 世界基督教統一神霊教会、原理講論、ソウル: 成和社、1995。
統一思想研究院、統一思想要綱 (頭翼思想)、ソウル: 成和社、1994。
李相軒、霊界の実相と地上生活、ソウル: 成和出版社、2000。
世界平和統一家庭連合、成約時代の清平歴史と祝福家庭の道、ソウル: 成和社、2000。
ハンドクジン、現代人の健康管理、(ソウル: 新光出版社、1999)、p.19.1
B.K.Williams、S.K.Knight、Healthy for Life (健康科学の理解)、チョンヘギョン編訳、ソ

ウル: ウリュ文化社、1998。

J.Naidoo & J.Willis、Health Promotion: Foundations for Practice、2nd ed、地域保健研究会訳、ソウル: 計測文化史、2001。

D.Hahn & W.Payne、Focus on Health、6ed、ジュワンギ、キムヒョンチュン、ジュジンヒョン訳、ソウル: ライフサイエンス、2004。

パクジョンスク他、生活と健康、2nd ed、ソウル: 啓明大学出版部、2005。

ユファジャ、霊的戦争と治癒、ソウル: キリスト教改革新報社、2005。